# 第2章

「多文化子育てサークル」の実施 のポイント

この章では、「多文化子育てサークル」の実施にあたり、実施主体、必要となるスタッフ、実施地域や開催場所、実施日程、周知方法などの検討するべき事項について、平成29年度の実績を踏まえた県の考え方を示しています。

### Q1 どのような組織が「多文化子育てサークル」の実施主体となりますか?

「多文化子育てサークル」の実施主体としては、市町村のほか、外国人支援団体、子育て支援団体などが考えられます。「多文化子育てサークル」の実施のためには、大きく分けると、「外国人支援のノウハウ」と「子育て支援のノウハウ」が必要になると考えられます。しかしながら、これらのノウハウを併せ持った団体は多くありません。そのため、「多文化子育てサークル」の実施効果を高めるためには、様々な団体・機関と連携・協力していくことが必要です。

以下に、想定される実施主体のよい点と不足を補うために考えられる連携先 を記載しますので、実施主体の検討の参考にしてください。

実施主体		よい点	考えられる連携先
1	教育委員会	・プレスクールや学校と連携した支援ができること	・多文化共生担当課
市		(開催場所の確保、広報、支援の連携など)	・外国人支援団体
町	子育て担当課	・保育所・幼稚園と連携した支援ができること	・多文化共生担当課
村	(保育所・幼稚	(開催場所の確保、広報、支援の連携など)	・外国人支援団体
	園等担当課含	・保育所や、子育てに関する各種制度についての豊富な情報と	
	む)	乳幼児期の子育て支援ノウハウを持つこと	
	母子保健担当課	・保健センター等と連携した支援ができること	・多文化共生担当課
	(保健所・セン	(開催場所の確保、広報、支援の連携など)	・外国人支援団体
	ター含む)	・子どもの発達や子育てに関する制度についての豊富な情報と	
		乳幼児期の子育て支援ノウハウを持つこと	
	多文化共生	・外国人コミュニティや NPO 等と連携した支援ができること	・教育委員会
	担当課	(広報、支援の連携など)	・子育て担当課
		・外国人住民に関する情報が豊富であり、外国人向けの事業実	・母子保健担当課
		施のノウハウがあること	・外国人/子育て支
			援団体
②外国人支援団体 (国		・普段の活動と連携した支援ができること	・市町村
際交流協会、多文化共		(開催場所の確保、広報、支援の連携など)	・子育て支援団体
生関係 NPO など)		・外国人住民に関する豊富な情報と、外国人向けの事業実施の	
		ノウハウがあること	
③子育て支援団体 (子		・普段の活動と連携した支援ができること	・市町村
育て支援センター、子		(開催場所の確保、広報、支援の連携など)	・外国人支援団体
育て関係 NPO など)		・各種制度や親子遊びなど子育てに関するノウハウがあること	

(連携例:市町村から NPO への委託、国際交流協会(外国人支援団体)と既存の子育てサークル(子育て支援団体)による共催、多文化共生関係 NPO が主催して保健センターに講師派遣の依頼など)

なお、本県が平成 29 年度に実施したサークルでは、看護師、保育士、保健師、 栄養士など外部からの専門性の高い講師を招いたり、図書館や児童センターの 協力を得て施設訪問を行いました。また、ちらしの配布は市町村役場の窓口や学 校、保育所などで行いました。こうした協力者の存在は、「多文化子育てサーク ル」を効果的に実施する上で重要です。



平成 29 年 10 月 28 日 (土曜日) NPO 法人みらいが実施した第3回「多文化子育てサークル」で、参加者自身が作ったハロウィン帽をかぶって撮った集合写真

#### **Q2 どのようなスタッフが必要ですか?**

「多文化子育てサークル」の実施にあたっては、①コーディネーター、②企画運営スタッフが必要です。加えて、通訳や外国人の視点からサークル運営に携わる③外国人スタッフがいるとよいでしょう。また保護者に向けた情報提供を行う場合は、④テーマ別講座講師も必要です。なお、これらのスタッフとは別に、言語面で参加者をサポートできるスタッフがいる場合は、必ずしもこれらのスタッフが外国語を話せる必要はありません。

#### **①コーディネーター**

「多文化子育てサークル」の実施のために必要となる業務は、主に以下の項目があり、多岐にわたります。そこで、これらの全体を見渡しながら、適したスタッフに業務を振り分け、それぞれの進捗状況を把握しながら全体のマネージメントを行うコーディネーターが必要です。

外国人支援や子育て支援についてのノウハウを持っていることが望ましいですが、他機関・団体との連携によりこれらのノウハウを補完できる場合は、必ずしも必要ありません。

#### 「多文化子育てサークル」実施のために必要となる業務

- ア サークルで実施する内容の検討・決定(日時・場所・活動内容など)
- イ アを実施するために必要となる会場の確保
- ウ アを実施するために必要となる講師・スタッフの確保
- エ 参加者募集ちらしの作成(デザイン、翻訳、印刷など)
- オ ちらし配布先の検討と配布先との調整、配布
- カ 物品準備(配布資料、おもちゃ、筆記用具などの用意)
- キ 講師・スタッフとの調整
- ク 当日の進行管理
- ケ 当日の通訳
- コ 当日の託児
- サ (必要であれば) 行事保険等の保険加入手続き

このほか、事業全体を通して、会計事務、ウェブページ・Facebookの運営、委託で実施する場合は報告書の作成などの業務が考えられます。

#### ②企画運営スタッフ

サークル運営を中心となって行うスタッフが必要です。コーディネーターの 指示に基づき、外国人スタッフとともに、①のア〜サを分担しながら取り組み ます(コーディネーターが企画運営スタッフを兼ねることもあります)。

#### ③外国人スタッフ

コーディネーターの指示に基づき、企画運営スタッフとともに、①のア〜サを分担しながら取り組みます。特にアの企画段階においては、外国人親子がどのようなサークル活動を必要としているのか、どうすれば参加しやすいのかなど、外国人としての当事者の視点で指摘することで、外国人親子のニーズに沿ったサークル活動が可能になります。また、ケのサークル内での通訳をとおして、ことばに壁を感じている外国人親子が参加しやすい環境づくりや、正確な情報提供等を行うこともできます。

平成 29 年度に実施したサークルでは、普段から受託 NPO の活動に携わっている外国人の方々がスタッフとして参加しました。彼らは、NPO や職場などで知り合った外国人の方々に対しサークルの宣伝を行い、それをきっかけに多くの外国人の方がサークルに参加しました。

#### ④テーマ別講座講師

「多文化子育てサークル」の中では、「栄養」、「病気」、「ことば」、「おもちゃ」など、子育てにまつわる様々な講座を実施して情報提供を行いますが、各分野についてより深く正確な情報を提供し、参加者の疑問に応えていくためには、専門性の高い知識が必要となります。そのため、分野ごとに外部から講師を招くことが望ましいと考えます。

なお、講師は、各分野における外国人の現状を把握している事が望ましいですが、そうでない場合も、事前に参加する外国人の状況などを伝え、それを踏まえて必要な情報提供を行ってもらいましょう。また、サークル内で講座を行う際は、日本語が分からない参加者がいることや、外国人スタッフが通訳を行うことを踏まえて、「やさしい日本語」で、ゆっくり話してもらいましょう。

平成 29 年 10 月 28 日(土曜日) NPO 法人トルシーダが実施した 第3回「多文化子育てサークル」の なかで、外国人スタッフが講師の 話を参加者に通訳している様子



#### Q3-1 どのような地域で実施したらよいですか?

外国人が集住している団地内などで実施するケースとアクセスのよい場所で実施するケースが考えられます。団地内などで開催する場合、近隣に暮らしている方は徒歩で通うことができるため参加しやすいですが、遠隔地域からの参加は難しくなります。地域の主要駅の近くなど、アクセスのよい場所で実施した場合は、幅広い地域からの参加が可能になりますが、乳幼児の保護者には公共交通機関の利用に消極的な方もいます。

平成 29 年度に実施したサークルのうち、外国人が集住している団地内で実施したサークルでは、団地内からの参加者が徒歩で通っているケースが多く、主要駅の近くで実施したサークルでは、市外を含む幅広い地域から自動車で通ってくるケースが見受けられました。

どちらのケースでもメリット・デメリットがあるため、開催コンセプトに添って、実施地域を検討しましょう。

#### Q3-2 どのような会場で実施したらよいですか?

「多文化子育てサークル」の会場は、実施主体にもよりますが、市町村が主催の場合は、地域の小学校や保育園・幼稚園、保健センター等の公的な施設が考えられます。NPO などが実施する場合は、地域の子育て支援センターやコミュニティセンター、団地の集会所などが考えられます。なお、保健センターなどでの乳幼児健診や予防接種の待ち時間、保育所の入園説明会など、外国人乳幼児親子が集まる場所に出向いて実施することも効果的と考えられます。

会場の選定にあたっては、子どもが走り回ってもケガをしないよう安全に配慮することが重要です。会議室のような会場を使用する場合、親子遊びの時間は机と椅子を極力しまっておくなどの工夫をしましょう。一方、粘度遊びや、保護者への日本語講座など、筆記を伴う作業を設ける場合には、机・椅子が必要になります。

会場は、畳の会場もあればフローリングの会場も考えられます。いずれの場合も、床に直接座ったり寝転がったりできる環境があると、子どもがのびのびと過ごすことができ、親子の目線も近くなります。なお、土足の会場の場合は、乳幼児が座ったり、はいはいをしたりしてもいいように衛生面にも配慮をして、ござやカーペットなどの敷物を敷くと、過ごしやすい環境をつくることができます。

#### 04 どのような日程で実施したらよいですか?

一般的な子育でサークルは平日に開催され、専業主婦の方や育児休業中の 保護者などが子どもを連れて参加している事が多いですが、外国人を対象と するサークルの実施にあたっては、配慮が必要です。外国人の方は、日本人 と比較して、不安定な雇用形態で就労していることが多く、育児休業をとら れる方や専業主婦が少ないため、平日の日中にサークルを開催しても多くの 参加が見込めません。しかし、平日であっても、出産から仕事に復帰するま での乳児を抱えた外国人を対象とすれば、乳児期に必要な情報提供や育児相 談を少人数でじっくり行うことができます。一方、日曜日は、宗教的な行事 等に参加する方が多いようです。地域の外国人の実態に合わせ、参加しやす い日程を検討しましょう。

#### Q5-1 どのように PR して参加者を募集したらよいですか?

参加者募集の主な媒体としては、以下のものが考えられます。

#### ① ちらし

ちらしを作成し、様々な場所に配布します。配布先としては、市町村役場、 保育園・幼稚園、子育て支援センター、保健所・保健センター、児童館・児 童センター、小学校、ボランティアの日本語教室、外国人が多く利用するス ーパーマーケットなどが考えられます。

なお、ちらしを配布することによって、配布に協力する関係機関などにも サークルの存在をアピールすることができます。

#### 2)SNS

Facebook などの SNS を使って広報を行います。印刷費等の費用がかからないことに加え、紙媒体と比較し、閲覧者が多いとそれだけ拡散もしやすいため、費用対効果は大きいと考えられます。

#### ③□□Ξ

サークルのスタッフが、普段活動している団体や関係者などに対しサークルについて宣伝したり、参加者同士が誘い合って参加することで少しずつ参加者が増えていきます。平成29年度に実施したサークルでは、参加者のうち圧倒的多数が、団体の外国人スタッフからメールや口頭で誘われて参加していました。ただし、こうした口コミの場においても、ちらしを渡しながら宣伝することが効果的なようです。

#### 05-2 申込み方法はどうしたらよいですか?

乳幼児の保護者は、子どもの体調や機嫌に左右され思うように外出できないことがあります。したがって、完全に事前申込み制にしてしまうと負担を感じてしまう可能性があるため、基本的に事前申込みは不要とし、当日自由参加制にしたほうが参加しやすいです。ただし、料理教室など活動内容によっては、想定外の参加者数が集まることもあり、活動場所の定員などに差し支える場合もありますから、外国人スタッフと個人的につながっている参加者や、過去に一度サークルに参加した参加者については、サークル実施前にメールなどである程度の参加可否の見込みを確認してもよいでしょう。



↑NPO 法人トルシーダが作成したちらし。第2回~第7回までの開催情報をまとめて掲載しました。紙面の関係で情報量は多くないですが、早い段階で周知することで参加者が先のスケジュールをたて参加しやすくなりました。



↑NPO 法人みらいが作成した第7回サークルのちらし。みらいでは、各回ごとにちらしを作成し広報しました。直近の開催情報をこまめに配布することで多くの情報を載せることができ、参加者の関心を引くことができました。

#### 06 どのような費用がかかりますか?

使用する会場やボランティアスタッフの有無などにより、全体の額は大きく 変動しますが、主に以下の①から⑥の費用が考えられます。

①人 件 費:スタッフの人件費及びテーマ別講座講師への謝礼など

②旅 費:スタッフやテーマ別講座講師などの交通費

③会 場 費:サークル活動を実施する集会所などの使用料

④ ちらし作成費:翻訳料、印刷費など

⑤消 耗 品 費:配布資料作成用インク、印刷用紙

⑥保 険 料:ボランティア保険

これらの費用のほか、必要に応じて、振込手数料、スタッフの駐車場代などがかかる場合もあります。また、調理イベント実施に係る食材費、ワークショップ 実施に係る文具費など、活動内容によって必要となる費用もあるため、活動場所 や内容を検討の上、費用を計算する必要があります。

なお、参考までに、平成 29 年度の「多文化子育でサークル」事業受託 2 団体のサークル活動 1 回あたりの費用を紹介します。

#### ● NPO 法人みらい実施「多文化子育てサークル」計:約14万円

O 1 111 ##	●コーディネーター:単価 2,000 円×20 時間×1人 ●企画運営スタッフ:2,000 円
①人件費	×10 時間×2人 ●外国人スタッフ:6,500 円×2 人 ●講師謝礼:7,000 円×2人
②旅費	●講師旅費:1,500 円×2人(往復) ※スタッフ旅費は人件費に含む
③会場費	●1,440円(知立団地集会所 親和室 使用の場合)
④ちらし作成費	●翻訳料:2,000 円×2言語 ●印刷費: 7,940 円(日本語・ポルトガル語両面カラ
(4) りりしTF成員	ー400 枚及び日本語・英語両面カラー100 枚)
⑤消耗品費	インク・印刷用紙・文具・食材費等:14,000円
⑥保険料	1日1名につき 30 円(社会福祉協議会ボランティア行事用保険)

#### ●NPO 法人トルシーダ実施「多文化子育てサークル」計:約20万円

	●コーディネーター:単価 2,000 円×20 時間×1人 ●企画運営スタッフ:単価 1,300		
①人件費	円×15 時間×4人 ●会計スタッフ:単価 1,000 円×5 時間×1人 ●外国人スタッフ:		
	単価 2,000 円× 2 時間× 3 人 ●託児スタッフ:単価 1,000 円× 2 時間× 3 人 ●記録		
	スタッフ:単価 1,300 円×6 時間×1 人 ●講師謝礼:10,000 円		
②旅費	●コーディネーター・企画運営スタッフ:1,000円×5名 ●外国人スタッフ:1,500		
②爪貝	円×3名 ●託児スタッフ旅費 (3名):計2,200円 (実費) ●講師旅費:3,000円 (実費)		
③会場費	●無料(とよた市民活動センター登録団体のため)		
<b>タナミレ佐代弗</b>	●翻訳料:5言語×2,000円(全回一括)		
④ ちらし作成費	●印刷費: 26,800 円(全回一括)		
⑤消耗品費	●インク・印刷用紙、各回のサークルで利用する物品等:平均 16,400円		
⑥保険料	●10,000円(全回一括)		



平成 29 年 9 月 24 日(土曜日)NPO 法人みらいが実施した第 3 回「多文化子育でサークル」のなかで、災害時に備えて作り方を学び、参加者自身が作成した新聞スリッパ

# 第3章

「多文化子育てサークル」の取組内容

本県では「多文化子育てサークル」の取 組を以下の6つに整理しました。

- 1 親子のコミュニケーションを促進す る取組
- 2 親子同士をつなげる取組
- 3 保護者への子育てに関する情報提供の取組
- 4 子どもの「ことば」について考えるき っかけづくりの取組
- 5 保護者の日本語能力を育成する取組
- 6 外国人親子と地域をつなげる取組

この章では、これらの取組の趣旨を記載するとともに、平成29年度のサークルで実施した活動の中からそれぞれの具体的な取組事例を紹介しています。

#### 1 親子のコミュニケーションを促進する取組

親が子どもに話しかけたり、スキンシップなどのコミュニケーションをとる ことは、ことばの発達や情緒の安定など、子どもの健全な成長にとって重要です。

そのため、「多文化子育てサークル」では、リズム遊びやベビーマッサージなど、 親子が一緒に楽しめる遊びや学びの機会をつくりながら、親子のコミュニケー ションを促進しています。

また、このような親子が「楽しい」と感じる活動の実施は、「多文化子育でサークル」を居心地のよい場所と感じてもらい、彼らの参加へのモチベーションを維持する上でも欠かせません。「多文化子育でサークル」の中では、保護者に対する子育でに必要な情報提供や日本語指導なども行いますが、教えられるばかりでは、彼らの参加意欲はなかなか持続できません。彼らが「また参加したい」と思える活動づくりという観点からも、こうした親子が触れあい、楽しめる活動の実施は重要です。

なお、近年、子ども時代を日本で過ごした、または日本で生まれ育った外国人が子どもを産むようになってきていますが、彼らの中には、親がいわゆる「デカセギ」として来日し、朝早くから夜遅くまで働きづめで、自身は一日中託児所などに預けられ、子ども時代に親子の触れあいの経験が十分になかった方もいます。そうした方の中には、自分の子どもとどのように関わったらよいのか分からず、積極的に子どもと関われない方がいるようです。一方、大人になって来日した外国人の中にも、同じような経験をしている方はおり、相談できる相手もおらず困っているケースがあるようです。このような方に対し、サークル内のみならず、家庭での子どもとのコミュニケーションのきっかけになるような活動を提供していくことが重要です。

# 事例 1 ベビーマッサージ

外部の講師を招き、ベビーマッサージの方法を丁寧に説明してもらいながら 親子でスキンシップをとり、心地よい時間を過ごしました。その場限りでなく、 マッサージの方法を覚えることで家庭でも実践できるような内容になりました。

**実施方法**:講師が説明をしながら参加者の前で実際にベビーマッサージを行い、参加者はそれを見ながら練習をしました。

講 師:外国人向けにベビーマッサージやヨガの講座を行っているインストラクター

**繋腕のポイント**: 畳の部屋や、敷物を敷くなど、床に寝転がれる環境が必要です。なお、実際のサークルでは、親子のスキンシップを重視し、ベビーだけでなく、どの子も参加できるようにした一方、気が乗らない子には無理強いしないよう配慮しました。

**必要なもの**: 床に敷くもの、可能であればベビー人形 (子どもが参加しない親も ベビーマッサージの方法を学んで家庭で実践できるように)

**参加者の反応**: とてもリラックスした様子で楽しんでいました。終了後、「とてもよかった。もっと知りたい。」などの声をいただきました。

**参加した子どもの年齢**: 0 ~ 6 歳



平成 29 年 11 月 25 日 (土曜日) NPO 法人みらいが実施した第 5 回 「多文化子育てサークル」のなかで行ったベビーマッサージの様子

# 事例2 「数」を使った遊び

親子がコミュニケーションをとりながら、「数」の概念を身につけるための遊びをしました。「数」は教科学習として学ぶだけでなく、身近にあるものだと気づいてもらうため、お菓子など家にあるものを使いながら数を数えたり、量を比べたりしました。将来的な「数」の勉強について家庭でできるサポートを伝える上でも効果的な内容になりました。

実施方法: スタッフの進行のもと、親子で、言われた数の指をぱっと出したり、みかんの袋の数やお菓子を数えたり、掴んだお菓子の数を比べたり、順番に並べたりしました。また、お菓子などの実物を算数セットの数え棒に置き換えて数えました。親子で楽しめるよう、「スタート」「ゴール」「1」~「30」までの数を印刷した紙を用意し、それを子どもが数ごとに切って数字の順番に厚紙に貼りすごろくをつくりました。

**実施のポイント**: 机のある施設が望ましいです。また、あくまでも「数」の概念を身 につける趣旨であるため、足し算や引き算などの算数の教科学習を すると勘違いされないよう、事前の周知の段階で説明が必要です。

**必要なもの**: 算数セット、お菓子など興味をもって数える練習ができるもの、数字を書いた紙、厚紙、クレヨン、のり、はさみ

**参加者の反応**: 言われた数の指を出すゲームは「一つ大きい数を出す、一つ小さい数を出す」と指示を変えると、大人でも一瞬考える場面がありました。終了後、「今後、家でお皿を数えさせたい。」「お箸やスプーンの数を比べさせたい。」などの意見が出ました。工作は子どもによっては手伝いが必要でしたが、参加者は楽しそうにすごろくを作っていました。

参加した子どもの年齢:0~10歳



平成 29 年 11 月 18 日 (土曜日) NPO 法人トルシーダが実施した 第 4 回 「多文化子育てサークル」の なかで作ったすごろく

#### 2 親子同士をつなげる取組

日本人・外国人に関わらず、子育て中の保護者の中には、子育てについて大きな不安を感じたり、孤独を感じている方が多くいます。このような時、多くの日本人は、育児書を参考にしたり、地域の子育てサークルなどの子育て支援施設を探して参加することでサポートを得たり、またそれをきっかけに子育ての悩みが共有できる仲間をつくることができますが、ことばの壁がある外国人にとって、それは容易なことではありません。

まずはそうした施設の情報が得にくいことがひとつの課題となりますが、例え情報を得られたとしても、日本語で十分にコミュニケーションをとることができないなど、日本人との間に壁を感じている外国人にとって、そうした施設に出向くには戸惑いがあります。こうした場合に、同じ境遇の保護者たちが知り合い、悩みを共有する関係づくりの場を提供することは「多文化子育でサークル」の重要な役割のひとつです。

また、外国人の子どもの中には、保育園などに預けられることなく、同世代の子どもと関わった経験のないまま小学校に入り、家族以外で初めての人間関係や集団生活に慣れることができず、不登校につながってしまうケースも見られます。「多文化子育でサークル」で同世代の子どもたちと関係を築くことは、子どもたちの社会性の発達にもよい影響を与えることが見込まれます。

これらのことから、「多文化子育てサークル」では、親と子のコミュニケーションだけでなく、保護者同士、子ども同士のコミュニケーションを促進していく取組の実施が望ましいと言えます。

平成 29 年度に実施したサークルの中では、子どもたちは実施者が特別な働きかけをしなくても、自然と追いかけっこを始めたり、同じおもちゃを取り合ったり、一緒に遊んだりして、コミュニケーションをとる様子がみられました。

一方、保護者同士の関わり、とりわけ国籍を超えた関わりについては、彼らのコミュニケーションのきっかけを作るような実施者の働きかけが必要でした。そこで、母国文化の紹介をとおした交流の機会をつくったり、軽食の時間を設けたり、集団で行うリズム遊びを取り入れることで、保護者同士のコミュニケーションを促進しました。

# 事例3 母国のおやつづくり

保護者同士が出身国ごとに集まり、各グループが母国のおやつをつくって参加者全員に振る舞いました。同じグループの仲間同士だけでなく、他のグループのおやつづくりも手伝うなど、国籍を超えた保護者の活発な交流がみられました。

**実施方法**: 事前に用意していたレシピと食材をつかって、それぞれの調理台で 母国のおやつをつくり、参加者全員にふるまうとともに、そのおや つの作り方や、おやつにまつわる母国の習慣を紹介し合いました。

**実施のポイント**:調理台のある施設が必要です。また、レシピの打ち合わせで保護者 同士が事前に顔合わせすることで、仲間意識が生まれ、当日の積極 的な参加につながります。

**必要なもの**:食材、レシピ、調理用具(調理施設に備え付けの場合不要)

**参加者の反応**: 当日はスタッフが驚くほど大勢の親子が参加し、国籍を超えた保護者間の積極的な交流が見られました。自分の国のおやつを参加者に振る舞い紹介する保護者の顔はとても誇らしげでした。

課 題:想定外の人数の参加があり、急遽子どもは別室で託児を行いました。 また想定していなかった国籍の参加者がおり、事前の準備がなかっ たため、他の国籍のグループに混ざってもらう結果となりました。

参加した子どもの年齢: 2~11歳



平成 29 年 10 月 28 日(土曜日)NPO 法人トルシーダが実施した第 3 回「多文化子育てサークル」のなかで行ったブラジルのおやつ(ブリガデイロ)づくりの様子

# Brigadeiro (ブリガデイロ)

ざいりょう

#### 材料

- ■ココアパウダー 大さじ4
- ·コンデンスミルク 1缶
- ・無塩バター 大さじ2
- てきりょう ・チョコレートスプレー 適量
- <sub>むえん</sub> てきりょう •無塩バター適量

つく かた **作り方** 

- \*鍋底が焦げやすいので、出来上がるまでこまめにかき回す。
- ② 鍋の底から生地が離れるようになったら、火を止める。
- ③ お皿に移し、粗熱をとる。
- べつ ようき い り 別の容器にチョコレートスプレーを入れる。



平成 29 年 10 月 28 日(土曜日)NPO 法人トルシーダが実施した第3回「多文化子育てサークル」のなかで実際に配布したブラジルのおやつ(ブリガデイロ)のレシピ

# 事例4 みんなで軽食

毎回の活動後、参加者全員で軽食をとりました。サークル活動を行う中では、 親子のコミュニケーションが中心となり、なかなか保護者同士のコミュニケー ションの機会をつくることが難しいですが、食事というリラックスした時間を 共有することで、保護者同士のコミュニケーションを促す貴重な機会になりま した。

実施方法: サークル活動中にスタッフが食事を買い出しに行き、サークル活動が終わった後に食事を提供しました。食事を用意した机の周りに親子が集まって、自由に食事を楽しみました。

**繋ೂパイント**: 机のある施設が必要です。また、宗教等で食事に制限のある参加者がいる場合は配慮が必要です。

必要なもの: 机、食事

**参加者の反応**:回を重ねるにつれて、食事前の手洗い行動が習慣化してきたり、みんなが揃うまで食べ始めるのを待つよう子どもに話す親の姿がみられるなど、サークルの活動の流れやルールの定着がみられました。また、サークルで学んだことについて、軽食の時間に保護者同士が話し合っている姿などもみられました。

参加した子どもの年齢:0~6歳



平成 29 年 9 月 24 日 (土曜日) NPO 法人みらいが実施した第 3 回 「多文化 子育てサークル」の軽食の様子

#### 3 保護者への子育てに関する情報提供の取組

子育てを始めると、子どもの健やかな成長のため、子どもの「食事」や「病気」 など様々な新しい情報を得る必要があります。

また、予防接種や乳幼児健診など母子保健に関する各種制度や、保育所・幼稚園などの制度についても理解する必要があります。日本人保護者にとっても複雑なこれらの制度について、日本語にハンデを抱える外国人保護者が情報を得、理解することは容易なことではありません。

外国人保護者の中には、各市町村が行っている「乳幼児健康診査」や「こんにちは赤ちゃん訪問」に対して、自分の子育ての仕方について批判されることを恐れ、健診に行かなかったり、訪問を断ってしまうような方もいます。また、子どもを認可保育所に通わせたいと思っていたのに、申込みの時期を知らず、気づいたら手遅れになっていたというケースもあります。これらのことは、必ずしも外国人だけでなく、日本人にも起こりうることですが、自分の得意な言語で情報を得られない分、日本人以上に得られる情報が少なかったり、口コミで聞いた誤った情報を信じてしまったりするようなこともあり、状況は深刻です。

そこで、こうした外国人保護者に対し「正しい」情報をわかりやすく伝えることも大切です。

平成 29 年度に実施した「多文化子育でサークル」では、栄養士、看護師、保健師、小児科医、保育士など、それぞれの分野の専門家を招き、外国人保護者に対する講座を実施しました。

講座の実施にあたっては、各言語の通訳がその内容を通訳することで、保護者のことばの壁を取り除き、よりわかりやすく正確に情報を伝えるとともに、保護者が積極的に質問できる環境をつくることができます。スムーズな通訳ができるよう、また、通訳者のいない言語の保護者にも配慮して、話し手が「やさしい日本語」を使って話すことが重要です。

# 事例5 こどもの「おやつ」についてのお話し会

栄養士の先生から、子どもにとっての「おやつ」の意味や、市販の「おやつ」 の選び方、糖分の摂りすぎについての注意などについて話していただきました。

実施方法: 栄養士の先生を招き、子どもにとっての「おやつ」について保護者に話していただきました。説明にあたっては市販のおやつやジュースを実際に用意し、それぞれの特徴について説明していただいたあと、参加者が実際に試食しました。

講 師:地域の医療に関する支援活動を行う団体のスタッフ

**繋腕のポイント**: 事例3のおやつづくりと組み合わせると、つくったおやつがどのような栄養素を含んでいるかという話もでき、「おやつ」から摂取する栄養素についてより具体的なイメージもってもらうことができます。

必要なもの:栄養素表(写真参照)、おやつ

**参加者の反応**: みんなで一緒におやつを試食し、終わってからも楽しそうにおしゃべりを続けていました。また、先生から、ジュースを飲むことは糖分の摂りすぎにつながるとのお話があり、終了後に早速子どもにジュースを飲むことを禁止している保護者もいました。



平成 29 年 10 月 28 日 (土曜日) NPO 法人トルシーダが実施した第 3 回 「多文化子育てサークル」のなかで行った栄養士の先生のお話の様子

# 事例6 子どもの「病気」についてのお話し会

子どもが体調を崩しやすい時期に入る前(10月)に、小児看護を専門とする 大学の先生から、子どもが冬にかかりやすい病気とその対処法などについて話 していただきました。

**実施方法**: 小児看護を専門とする大学の先生を招き、冬の子どもの病気やその対処法、救急時の対応について保護者に話していただきました。

講 **師**: 普段から受託 NPO の活動に協力してくださっている大学の先生

**繋腕のポイント**: 医学用語は外国人の参加者には難しいことがあるので、簡単な日本語に置き換えて説明する必要があります。子どもが体調を崩しやすい季節の変わり目に実施することで、保護者により関心をもって聞いてもらうことができました。

必要なもの:子どもの病気とよく使う日本語についての配付資料(P87参照)

**参加者の反応**: 先生のお話を一方的に聞くだけでなく、子どもの便秘や鼻水など、 普段気になっていることについての質問もありました。病院など では医師のことばは難しく理解できないので、こうした形でわか りやすく聞くことができてよかった、との声もありました。



平成 29 年 10 月 28 日 (土曜日) NPO 法人みらいが実施した第4回「多文化子育て サークル」のなかで行った愛知医科大学の小児科の先生のお話の様子

#### 4 子どもの「ことば」について考えるきっかけづくりの取組

第1章2節で詳しく説明されているとおり、親子が家庭でコミュニケーションのために使う「ことば」を大切にして育てることは、家族のつながりだけでなく、日本語など他言語をスムーズに習得したり、ものごとを深く考えるために重要です。また、自分のルーツを理解したりアイデンティティを確立していく上でも必要です。

外国人保護者が子どもと関わるとき、保護者自身が最も得意とすることばで話しかけることが望ましいとされています。しかしながら、このことはまだ広く認知されておらず、外国人親子に関わる支援者が、子どもの日本語能力を育てるために、家でも日本語を使うように保護者に指導するようなケースも見られます。そうして保護者が不慣れな日本語で子どもに話しかけることにより、結果的に子どもの言語の発達を阻害してしまうことがあります。

本県では、平成 28 年度に子どもの言語力を伸ばしていくために家庭で心がけることを「外国人の乳幼児期における言語習得に大切なポイント」としてまとめました。

# 外国人の乳幼児期における言語習得に大切なポイント

- ① 子どもには、「親が自信を持って話せる言語」で話しかけましょう
- ② 積極的に子どもとかかわり合って、子どものことばを増やしながら親子のきずなを深めましょう
- ③ 地域のイベントや行事に参加するなど、いろいろな体験の中で子どもに自信をつけさせましょう
- ④ 外国人コミュニティの集まりを活用するなど、子どもに母語を使う機会を与えましょう
- ⑤ 親自身が自分たちの文化やルーツに誇りを持ちましょう

家族全員がこれらのことを理解して、一緒に子育てに取り組めば、子どものことばは育ちやすくなります。そして、子どもがスムーズに日本語を習得することにつながります。

しっかりと言語を身につけさせれば、子どもの生きる力となり、バイリンガルとしての活躍も期待できます。

2つ以上の言語が習得できる環境を大切にして子どもを育てましょう。

「多文化子育てサークル」では、このポイントを保護者に伝えるなど、保護者が子どもの「ことば」について考える機会をつくることが重要です。

# 事例7 子どもの「ことば」についてのお話し会

保護者としてどのように子どもの「ことば」を育てるかということについて、 小学校の先生から、保護者が最も得意なことばで話しかけることや、絵本の読み 聞かせの重要性などについて話していただきました。

**実施方法**: 先生が、紙芝居を使いながら、参加者の前で子どもの「ことば」に ついてお話しされました。

講師:外国人児童が多い小学校での経験が豊かな教員

**実施のポイント**:「オーストラリアに嫁いだ日本人は子どもを何語で育てるべきか」 といった具体的な事例をあげて、保護者に問いかけながらお話を進 めたことで、保護者がより子どもの「ことば」について考えやすい 内容になりました。

必要なもの:紙芝居

**参加者の反応**: お話が終わったあとの軽食会で、保護者同士がそれぞれの家庭で使用している言語や自分の考えについて話し合っている姿がみられました。子どもが理解できず、自分も得意ではない日本語を家庭で使おうとしていた保護者から、お話し会の後、「家庭言語を母語にしたいと思います」という声が聞かれました。



平成 29 年 11 月 25 日 (土曜日) NPO 法人みらいが実施した第 5 回 「多文化子育てサークル」のなかで行った子どもの「ことば」についてのお話し会の様子

#### 5 保護者の日本語能力を育成する取組

子育てを始めると、子どもを予防接種や乳幼児健診に連れて行く、保育園に通わせるなど、外に出かけ、日本語でのコミュニケーションが必要となる場面が増えていきます。

外国人集住地域には、保健所や役所に通訳がいたり、外国語で対応してくれる 病院もありますが、子育てに関わるすべてのサービスが多言語化されているわ けではありません。

日本語が理解できないことで、例えば、乳幼児健診の際、子どもの健康に関わる指導が理解できない、逆に子どもの発達について相談したくてもできないなど、必要な情報を理解したり、伝えたりすることができず、子どもの健康や発達に悪影響を及ぼしてしまうケースも十分考えられます。

また、子育てについて何か悩みを抱えたとき、相談し、悩みを共有できる友人の存在は重要です。すでに同国人のコミュニティに入り、そうした友人を持っている方もいますが、国籍や地域によっては、同じ出身国の仲間を見つけることが難しい場合があります。そのような時、日本語を話して日本人とコミュニケーションをとることができれば、同じ言語の外国人だけでなく、日本人も含め、身近に相談できる友人を圧倒的につくりやすくなります。

このような観点から「多文化子育てサークル」では、外国人保護者の日本語能 カの向上にも取り組むことが望ましいと考えられます。

その方法については、まず、日本語教室のように指導者がテーマに沿った日本語を参加者に教えることが考えられます。本県では、平成28年度、次項のとおり、「子どもの成長に従って保護者に求められる日本語能力を育てる日本語教室を開催する上でのポイント」をとりまとめています。

また、多国籍の参加者に参加してもらい、彼らの交流を促進することで、日本語が共通言語となり、自然に彼らの日本語の練習につなげることもできます。

# 子どもの成長に従って保護者に求められる日本語能力を育てる日本語教室を開催する上でのポイント

- ① Can-Do ステートメント (何ができるかのリスト) 等、「この日本語を身につけることで何ができるか」という視点を取り入れましょう
- ② 「言葉」だけではなく「行動・体験型の活動」を取り入れましょう
- ③ 子どもの学校生活について知るなど、子どもの成長にともなって相談にのれるような日本語能力を保護者に身につけてもらいましょう
- ④ それぞれの家庭の事情(言語・文化など)にも配慮しましょう
- ⑤ 次のような学習目標を取り入れてみましょう
  - ・母子保健:乳幼児期の健康診断や予防接種についてするべきことを学んだり、母子手帳の内容を理解して、子育てに必要なことを知る
  - ・学 校: 普段の学校の生活や年間行事について知り、また、進学システムなどの教育制度を理解して、保護者の役割を考える
  - ・地 域:地域のいろいろな行事に参加したり、「図書館で本を借りる」 など地域の施設を活用したりして、子育ての活動範囲を広げ る
  - ・家 庭:お弁当づくりなど、日本語のレシピで料理をつくる

# 事例8 自己紹介の日本語

保護者に自分や子どもについて紹介するための日本語を学んでもらいました。

**実施方法**: 受託 NPO のスタッフが、教材のプリントに基づき自己紹介で使う 日本語のあいさつなどについて教えたあと、実際にその日本語を使

って参加者同士が日本語で自己紹介をしました。

**講 師**: 受託 NPO のスタッフ

**実施のポイント**: 筆記するため、机がある部屋が必要です。保護者が勉強している間、

子どもにはおもちゃを用意して遊ばせました。

必要なもの: 教材のプリント (P85 参照)、筆記用具

**参加者の反応**:日本語があまり話せない方もいましたが、真剣に耳を傾け、同じ出

身国の参加者のサポートを受けながら、一生懸命自己紹介していま

した。サークルの始めにこの自己紹介を行うことで、連帯感が生ま

れました。



平成 29 年 9 月 30 日 (土曜日) NPO 法人トルシーダが実施した第 1 回「多文化子育てサークル」のなかで行った自己紹介の日本語指導の様子

#### 6 外国人親子と地域をつなげる取組

地域には、子育て支援センターや児童館、図書館など、子育てに役立つ施設がたくさんあります。こうした施設を利用すれば、お金をかけることなく、保護者のストレスを解消したり、子どもに新しいおもちゃや絵本などに触れる経験をさせてあげることができます。また、地域に出ることで新しい交友関係が広がる可能性もあり、保護者にとっても子どもにとっても、有益であると言えます。

しかしながら、外国人保護者の中には、情報不足からこれらの施設の存在を知らなかったり、存在は知っていてもことばの壁から、利用することに抵抗を感じてしまう方もいます。例えば、図書館の利用方法自体は、「借りたい本を選んで窓口に持って行く」という、簡単なことであっても、利用したことのない外国人にはそれが分からなかったり、初回貸し出し時につくる「図書カード」(貸出券)作成のための記入フォームが多言語化されておらず理解できなかったりするなど、外国人保護者がつまずいてしまう要素は少なくありません。母国に同様の施設がなく、"図書館は本を「買う」場所ではなく「借りる」場所である"という説明から必要な場合もあります。

そのため「多文化子育てサークル」では、こうした地域の施設について紹介したり、実際にみんなで施設を利用したりするなど、外国人親子と地域のリソースをつなげるような取組を実施することが望ましいと考えます。

平成 29 年度の「多文化子育てサークル」事業では、外国人親子を連れて地域の児童センターに行きましたが、実施後、保護者から、「このサークルをきっかけに、ママ友同士で時間を約束して児童センターを利用するようになった。」という声も聞かれるなど、大きな手応えを感じました。

なお、外国人側だけでなく、施設側も外国人の対応に慣れていない場合があります。「多文化子育でサークル」での施設訪問は、施設側が地域に外国人が住んでいることを認識し、外国人に対応するコツなどを掴んでいただくという点においても意義のあることだと考えます。

# 事例9 図書館へ行ってみよう

参加者みんなで図書館に行って、「図書カード」をつくり、実際に本を選んで借りました。また、図書館のスタッフから絵本の選び方について御指導いただきながら、絵本の読み聞かせをしてもらいました。

実施方法: 事前に図書館のスタッフに事業の趣旨を説明し、絵本の選び方などについて指導いただくようお願いしました。また、「図書カード」の作成フォームの記入をサポートし、実際に図書館で図書カードをつくって本を借りました。借りる本を選ぶときは、外国語の本も置いている絵本コーナーでゆったりと時間をとりました。

**講 師**:図書館のスタッフ

実施のポイント: 事前に図書館のスタッフに、参加する子どもたちの年齢や日本語レベル、外国人にとっての図書館利用の難しさなどを説明したことで、幅広い年齢の子どもが参加したにも関わらずみんなが楽しめる本を選定し、ゆっくりと読み聞かせしていただくことができました。

必要なもの:図書カードの作成フォーム、筆記用具

**参加者の反応**: 読み聞かせは、大人も含めて参加者全員が聞き入っていました。また、活動の中で実際に借りる本を選んだとき、どの家庭も上限いっぱいの本を借りていました。「日本語を覚えるためにも子どもに本をたくさん読ませたい。」という声もありました。

参加した子どもの年齢: 4~10歳



平成 29 年 10 月 14 日(土曜日) NPO 法人トルシーダが実施した 第 2 回「多文化子育てサークル」で、図書館のスタッフが子どもの 本選びをサポートしてくださっている様子

### 事例 10 地域の乳幼児親子教室へ行こう

参加者みんなで、地域の児童センターが実施する乳幼児親子教室に参加し、日本人親子に混ざって触れあい遊びを楽しみました。また、センターのスタッフから、子どもの発達や日本の保育園・幼稚園などついて教えていただきました。

実施方法: 事前に児童センターのスタッフに事業の趣旨を説明し、子どもの発達や日本の保育園などの施設についてのお話しをお願いしました。当日は、入り口で名簿に記入する、スリッパに履き替えるなど児童センターの利用方法を体験した後、乳幼児親子教室に参加しました。また、センターのスタッフから、施設の使い方、子どもの発達、日本の保育園・幼稚園についての話をしてもらい、質疑応答も行いました。

**講 師**:児童センターのスタッフ

**業施のポイント**:保育所の入園申込み前の時期に実施したことで、必要な情報を必要な時期に届けることができました。

**参加者の反応**:「子どものために参加をしたいと思っても、自分一人が外国人だと不安を感じる。みんなで行くと参加しやすいと思う。」という声が聞かれました。また、「近くに住んでいるのに、施設についてまったく知らなかった。」「このサークルをきっかけに、ママ友同士で時間を約束して児童センターを利用するようになった。」 などの声が聞かれました。

参加した子どもの年齢: $0\sim3$  歳



平成 29 年 9 月 8 日(金曜日) NPO 法人みらいが実施した第 2 回「多文化子育てサークル」で、児童センターのスタッフが日本の保育所について話ししてくださっている様子



平成30年2月3日(土曜日) NPO法人トルシーダが実施した第7回「多文化子育てサークル」で、リズム遊びを行っている様子